教育研究業績書

2025年05月07日

研究分野	研究内容のキーワード
食品衛生学、食糧資源保存学	常温ガラス化技術、食品ロス問題、持続可能性
学位	最終学歴
Ph.D. (博士 分子生物学)	米国南カリフォルニア大学大学院博士課程卒業

教育上の能力に関する事項							
事項	年月日	概要					
1 教育方法の実践例							
1. 英語圏教育方法の積極的導入 2. 視聴覚を利用したインターラクティブな授業	2012年04月~現在 2007年04月~現在	米国での大学院教育を受けた経験をもとに、一部の可能な授業においては、できる限り欧米型の教育方法 (プレゼンテーションを重視したインターラクティブな授業形式)も取り入れている。特に、国際栄養学演習の海外学生引率研修(MFWI)では現地施設で同時翻訳を行っている。 担当している講義や実習では、非常に多くの写真や図					
2 作成した教科書、教材		表、あるいは映像やアニメーションを利用しながら、 出来る限り双方向になる形で進めており、学生の集中 力が途切れない工夫をしている。					
1177010371111 3713	2011/2048	松利事 (フノレノコーピ) シュンハ					
1.健康と食の安全を考えた食品衛生学実験	2011年04月	教科書(アイケイコーポレーション)					
2. 基礎からのやさしい化学ーヒトの健康と栄養を学ぶためにー	2011年04月	教科書(建帛社)					
3.Nブックス新版食品衛生学	2011年04月	教科書(建帛社)					
4.Nブックス実験シリーズ食品衛生学実験	2009年04月	教科書 (建帛社)					
3 実務の経験を有する者についての特記事項	3 実務の経験を有する者についての特記事項						
4 その他							

職務上の実績に関する事項						
事項	年月日	概要				
1 資格、免許						
1.Ph.D. (博士 分子生物学)	1995年5月					
2 特許等						
3 実務の経験を有する者についての特記事項						
4 その他						

	研究業績等に関する事項							
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要				
1 著書								
1.Nブックス新訂食品衛	共	2020年5月	建帛社	伊藤武、古賀信幸、金井美恵子、佐藤吉朗、永山敏廣、桝田和彌、				
生学				松浦寿喜、山口仁孝、吉田徹				
				新たに新訂された食品衛生学の第2章1~3(一部除く)を分担執筆				
				した。				
2.健康と食の安全を考	共	2011年04月	アイケイコーポ	中村好志、松浦寿喜、石原健吾、石綿肇、宇都宮信子、木苗直秀、				
えた食品衛生学実験			レーション	佐野満昭、高根沢亜美、増田修一、吉田徹				
				第1章衛生微生物学試験の章のうち、第3節細菌の染色試験の項目				
				と第4節大腸菌群試験の項目を分担執筆した。				
3.基礎からのやさしい	共	2011年04月	建帛社	田島眞、有井康博、麻生慶一、小栗重行、田中直子、山田一哉、吉				
化学-ヒトの健康と				川尚志、吉田徹				
栄養を学ぶために-				やさしい基礎化学-ヒトの健康と栄養を学ぶために-のうち、第3				
				章物質の三態に関わるモルの概念、気体の性質、溶液の性質、溶液				
				の濃度計算の項目、及び第4章化学反応に関わる化学反応式、化学				
				反応とエネルギーの項目を分担執筆した。				
4.Nブックス食品衛生学	共	2011年4月	建帛社	伊藤武、古賀信幸、金井美恵子、後藤政幸、佐藤吉朗、逵牧子、西				
				島基弘、福島正子、松浦寿喜、宮沢文雄、吉田徹				

	研究業績等に関する事項						
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要			
1 著書 5.Nブックス食品衛生学 実験	共	2009年4月	建帛社	食品衛生学の食品と微生物の章のうち、細菌の増殖と環境条件の項目及び、食品の変質と防止の章のうち、食品の変質の項目を分担執筆した。 後藤政幸、上田龍太郎、金井美恵子、岸本満、古賀信幸、杉山千歳、辻牧子、友近健一、仲克己、松浦寿喜建帛社Nブックス実験シリーズの1つとして出版されている実験書の1つ。主に管理栄養士や栄養士教育のための食品衛生学実験の手引			
6. 老化のバイオロジー	共	2000年12月	メディカル・サイ エンス・インター ナショナル	書。分担は発色剤、着色料。 老化学の総合的教科書として、世界中で広く使われているRobert Arking著のBiology of Agingを鍋島陽一、北徹、石川冬木監訳のも と、17名の執筆陣で翻訳を行った。14章構成のうち、パートIV 「まとめと展望」の13章と14章を分担した。			
7. 動物細胞培養の実際	共	1990年03月	丸善	バイオテクノロジーの基本的技術である動物細胞培養に関する様々な技法がまとめられたR.I. Freshney編纂のAnimal Cell Culture — A practical approachを8名の執筆陣で翻訳した。このうち、第6章フローサイトメトリーを分担した。			
2 学位論文							
1.Cloning and characterization of rat gadd45 cDNA and gene: Its mRNA expression following DNA damage agents in vitro and in vivo.	単	1995年5月	University of Southern California	The Ph.D. thesis comprises a series of molecular approach to examine DNA damage and the expression of several DNA damage inducible genes in vitro using in situ hybridization or RNase protection assays. I detected that the expression of DNA damage inducible genes in rat brain in vivo, and cloned rat growth arrest and DNA damage inducible (gadd45) cDNA and its gene. The rat gadd45 gene was induced following alkylating agent treatments such as MMS and EMS, and the kinetics of rat gadd45 mRNA occurred in relatively short period in proportion to the dose of gamma ray irradiation. The finding of in vivo induction of rat gadd45 may provide insights into its function in DNA repair pathway.			
3 学術論文							
1. アルテミア耐久卵ガ ラス化における内在 性トレハロース量と 平衡水分含量の検討 (査読付)	共	2025年4月	低温生物工学会誌 71 (1) 31-35, 2025	佐古つかさ、諸井美樹、吉田徹 有限なリソースを擁する地球にとって、生物資源確保の必要性は喫緊の課題である。本研究ではモデル生物であるアルテミアを用いて、食品素材の保存性を高めるガラス化状態に必要なトレハロース量と平衡水分含量の検討を行なった。その結果、アルテミア卵のガラス転移温度(Tg)は、トレハロース含有量の高い乾燥卵では、平衡水分含量の上昇に伴って下降する傾向が認められ、トレハロース量の低い水和卵のTgはより低い温度と急な温度勾配を示した。また、ガラス化による組織のダメージを評価するために実効孵化率を調べたところ、乾燥卵は水和卵と比べ著しく高く、生体組織はガラス化を維持することで、ダメージ損傷を回避していることが認められた。			
2. 水和処理を行ったアルテミア耐性卵卵膜における膜透過性改善処理の検討(査読付)	共	2020年10月	低温生物工学会誌 66 (2) 151-155, 2020	諸井美樹、福尾惠介、吉田 徹 アルテミアの耐性卵は、幅広い外界環境変化に対して著しい耐性を 示すが、再水和によって、そのストレス耐性を失う。本研究では、耐性卵のキチン質からなる卵殻を脱殻し、卵膜の透過性を各種試薬 によって改善させることを目的として、生細胞染色法を利用した評価モデル系の作製を試みた。その結果、カチオン性合成ポリマー試薬のポリアリルアミンで処理を行うことで、アルテミア卵膜の膜透過性の向上が示唆された。			
3. アルテミアのストレ ス耐性とバイオアッ セイ法(査読付)	単	2017年08月	冷凍 第92巻 (1078)16-20, 2017	吉田徹 極限環境生物の一種であるアルテミアは、極低温、激しい温度変化、極めて強い乾燥、高い浸透圧、高真空などのほか、紫外線、電離放射線など幅広い外界ストレスに対して著しい耐性を示す。本稿では、様々な極限環境生物が一般にクリプトビオシスと呼ばれる無水状態、無代謝状態にあり、生体内部のガラス化(ビトリフィケーション)と関連している知見と共に、アルテミアの耐久卵にもこのようなストレス耐性能力があること、水和胚の孵化率を指標としたバイオアッセイ法の開発を行ったことを報告した。			

研究業績等に関する事項						
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要		
3 学術論文	1	1	1			
4. 脱殻処理を施したア ルテミア水和凍結胚 による凍害評価法 (査読付)	共	2013年9月	低温生物工学会誌 59 (2) 121-125, 2013	吉田徹、田中翠、坂上万里、福尾惠介、福田満。 アルテミア耐性胚を脱殻した水和凍結胚を用いて、孵化率を指標と した凍害評価実験を行った.凍結速度による水和凍結胚内部の状態 を調べるため、Cryo-SEMでアルテミア胚の割断面を観察したとこ ろ、細胞質内の微細構造の違いが認められた.また、脱殻した水和		
5.日本人女性における FTO遺伝子多型と体脂 肪蓄積、糖代謝異常 の関連一運動と加齢 の影響ー(査読付)	共	2013年3月	糖尿病 第56巻 (3) 155-164, 2013	胚に対して、複数の凍害防御剤による前処理後に急速凍結したところ、DMSO処理によって孵化率の改善が認められた。田中翠、呉武、谷野永和、福尾恵介、鹿住敏、吉田徹FTO遺伝子多型をもつ日本人女性で、激しい運動や加齢が、体脂肪蓄積、糖代謝異常にどのように影響するかを調べた。遺伝子多型による体脂肪蓄積は運動によって大きな影響は認められなかったが、加齢により、中年女性では内蔵脂肪の蓄積や空腹時血糖値の上昇を認		
6. アルテミア水和凍結 胚の孵化率を指標と した凍害評価法(査 読付)	共	2012年10月	低温生物工学会誌 58 (2) 195~199 , 2012	あられた。 吉田 徹、鮫島 由香、田中 翠、鹿住 敏、福田 満、福尾 惠介 アルテミア乾燥シストの水和時間を調節して様々な凍結感受性胚の 作製を行い、凍結速度の違いにより水和凍結胚内部で生じる物理的 な凍結障害の違いを、孵化率の変化として検出する凍害評価法を確 立した。		
7.FTO, Abdominal Adiposity, Fasting Hyperglycemia Associated with Elevated HbAlc in Japanese Middle- Aged Women (査読	共	2012年01月	J Atheroscler Thromb, 2012; 19 :633-642	Midori Tanaka, Toru Yoshida, Wu Bin, Keisuke Fukuo and Tsutomu Kazumi Despite the small sample size, the low average BMI, and the low risk allele frequency, a genetic variation at the FTO locus was related to greater weight gain before age 12 in Japanese women. At age 20, it was related to general adiposity. In midlife, however, it was related to abdominal adiposity in addition to general adiposity, fasting hyperglycemia, higher HbAlc and subtle systemic inflammation. Fasting hyperglycemia associated with higher HbAlc in midlife was independent of its effects on general and abdominal adiposity.		
8. High Hatching rates after cryopreservation of hydrated cysts of the brine shrimp A. franciscana. (查読付)	共	2011年06月	CryoLetters 32 (3), 206-215 (2011)	Toru Yoshida, Yasuhiro Arii, Katsuhiko Hino, Ikuo Sawatani, Midori Tanaka, Rei Takahashi, Toru Bando, Kazuhisa Mukai, and Keisuke Fukuo Cysts of Artemia franciscana are known to be extremely tolerant to UV and ionizing radiation, hypoxia, dryness, osmotic pressure, and temperatures. However, when cysts are hydrated, their resistance to extreme environmental conditions is markedly reduced, and they subsequently enter a developmental sequence. The hatching rate of hydrated cysts declined when they were rapidly frozen after a short period of hydration but slow freezing improved hatching rates after 6-h hydration (1.4 g H20 per g dry wt). We observed that trehalose content in hydrated cysts was greatly reduced up to 6-h time. DSC analysis showed different thermal profiles at two cooling rates, suggesting the formation of a minuscule ice crystal inside the cells. High hatching rates can be obtained from highly hydrated cysts at slow cooling rate.		
9. 若年女性において FTO遺伝子多型は体脂 肪蓄積とインスリン 抵抗性に影響を与え る(査読付)	共	2011年04月	肥満研究 第17巻 (1) 35-40 (2011)	田中翠、呉武、福尾恵介、鹿住敏、吉田徹 FT0遺伝子多型で、若年女性においても体脂肪蓄積とインスリン抵抗性の相関が認められ、将来的な生活習慣病発症の予防指標としての意義を報告した。		
10. Thioredoxin Binding Protein 2 Modulates Natural Killer T Cell- Dependent Innate Immunity in the	共	2009年10月	Antioxidant & Redox Signalling, 11 (10), p2585-p2593, (2009).	Hiroaki Okuyama, Toru Yoshida, Aoi Son, Shin-ichi Oka, Dongmei Wang, Rika Nakayama, Hiroshi Masutani, Hajime Nakamura, Yo-ichi Nabeshima, Junji Yodoi We revealed a decrease in the percentage of hepatic natural killer T (NKT) cells in TBP2KO mice and an increase in the percentage of hepatic NKT cells in TBP2TG mice. The TBP2KO		

研究業績等に関する事項						
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要		
3 学術論文						
Liver: Possible Link to Lipid Metabolism. (査読 付)				mice were resistant to concanavalin A (ConA)-induced hepatitis, but they were highly susceptible to other types of hepatitis. TBP2 modulates lipid metabolism as well as NKT cell activity. Moreover, TBP2 expression was increased significantly in klotho-deficient mice, which exhibit a syndrome resembling aging human phenotypes. TBP2 may play multiple roles in lipid metabolism, innate immunity, and aging.		
11.Thioredoxin binding protein 2は 肝内NKT細胞を介して Concanavalin Aによ る肝炎を制御する (査読付)	共	2008年08月	酸化ストレスと肝 疾患 第4巻 p78- p83, 2008	奥山裕照、吉田 徹、孫 安生、岡 新一、増谷 弘、中村 肇、淀井淳 司 TBP-2(Thioredoxin binding preotein-2)が、肝臓の自然免疫系細胞 の働きかけを経て、糖蛋白質レクチンの一種であるConcanavalin A による肝炎の制御に関わることを報告した。		
12. Thioredoxin binding protein-2: its potential roles in aging process. (查読付)	共	2006年06月	Biofactors. 2006;27(1-4):47-51.	Yoshida, T., Kondo, N., Oka, S., Ahsan, M., Hara, T., Masutani, H., Nakamura, H., Yodoi, J. Thioredoxin (TRX) binding protein-2 (TBP-2), a negative regulator of TRX, is involved in intracellular redox regulation and cellular growth. The expression of TBP-2 is frequently lost in tumor cell lines and tissues, whereas the ectopic expression of TBP-2 suppresses cellular proliferation along with cell cycle arrest at the G1 phase. TBP-2 was also reported to be a cellular senescence-associated gene. Besides the retardation of cellular growth, the reduction of white adipose, and alteration of the energy pathway are involved in several features of the aging process. We have generated TBP-2 genetically modified mice and found that TBP-2 is closely linked to lipid metabolism. Indeed, TBP-2 has been suggesting to be related to familial combined hyperlipidemia analyzed by a spontaneous mutant mouse strain. As lipid metabolism is one of the most primitive sources of energy production, we discussed the possible roles of TBP-2 in the regulation of energy utilization connected to the aging process.		
13. Impaired fatty acid utilization in Thioredoxin Binding Protein-2 (TBP-2)-deficient mice: a unique animal model of Reye syndrome. (査 読付)	共	2006年01月	FASEB J. 2006 Jan;20(1):121-3.	Oka, S., Liu, W., Masutani, H., Hirata, H., Shinkai, Y., Yamada, S., Yoshida, T., Nakamura, H., Yodoi J. We show that TBP-2 expression is markedly up-regulated during fasting in wild-type mice, while TBP-2-/- mice were predisposed to death with bleeding tendency, as well as hepatic and renal dysfunction as a result of 48 h of fasting. The fasting-induced death was rescued by supplementation of glucose but not by that of oleic acid, suggesting that inability of fatty acid utilization plays an important role in the anomaly of TBP-2-/- mice. In these mice, plasma free fatty acids levels are higher, whereas glucose levels are lower than those of wild-type mice. Compared with wild-type mice, TBP-2-/- mice showed increased levels of plasma ketone bodies, pyruvate and lactate, indicating that Krebs cycle-mediated fatty acid utilization is impaired. Because the fatal impairment of fatty acid utilization is impaired. Because the fatal impairment of fatty acid utilization is a characteristically metabolic feature of Reye (-like) syndrome, TBP-2-/- mouse may represent a novel model for investigating the pathophysiology of these		
14. The involvement of thioredoxin and thioredoxin binding prortein-2 on cellular	共	2005年12月	Annals of the New York Academy of Sciences (2005) Dec;1055: 1-12.	disorders. Yoshida, T., Nakamura, H., Masutani, H., Yodoi, J. Thioredoxin (TRX) is a small thiol-mediated protein with a redox-active disulfide/dithiol within the conserved active site. TRX transgenic mice are more resistant than control mice to a variety of oxidative stresses including infection		

研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要	
3 学術論文	共有盲別	光衣の千万	人は子芸寺の石林		
proliferation and the aging process. (查読付)				and inflammation. Moreover, we observed that the median life span of TRX tg mice was extended up to 135% compared to that of controls. TRX binding protein-2 (TBP-2), which is identical to vitamin D3 upregulated protein 1 (VDUP1), was identified as a binding molecule to TRX, and a negative regulator of TRX function. The expression of TBP-2/VDUP1 is frequently lost in tumor tissue and cell lines, and ectopic expression of TBP-2/VDUP1 suppresses cellular proliferation along with cell cycle arrest at the G1 phase. These findings suggest that TRX and TBP-2/VDUP1 are involved not only in cytoprotective functions against oxidative stress, but also in the regulation of cellular proliferation and the aging	
15. チオレドキシン関連 分子	共	2005年07月	医学のあゆみ (別冊) 2005, p42- p45	process。 岡新一、吉田徹、淀井淳司 チオレドキシン結合蛋白質-2が関与する発癌やエネルギー代謝制 御のメカニズムについて、チオレドキシンの阻害因子として作用を 解説し、生体応答におけるレドックス制御分子の役割を報告した。	
16.The role of thioredoxin in the aging process: involvement of oxidative stress. (查読付)	共	2003年10月	Antioxidants & Redox Signaling 5, 563-570 (2003)	Yoshida, T., Oka, S., Masutani, H., Nakamura, H., Yodoi, J. Reactive oxygen species are produced by various stressors derived from internal and external sources, including endogenous metabolic activities. Glucose metabolism is one of the most primitive sources for energy production for most cells; however, it may at the same time yield hazardous oxidative stress via simultaneous oxidant production. The protective mechanism against oxidative stress is thus an indispensable biological function. Recently, genetic mutation loci affecting life span were isolated from experimental model organisms, and several locus products were found to be closely linked with machinery either producing or defending oxidative stress. Thioredoxin (TRX) is a small protein having strong antioxiradical quenching capabilities and other multiple functions depending on the cellular redox state. In this review, we focus on the role of TRX in the aging process (senescence) as a redox-regulating molecule against oxidative stress. We also discuss the possibility of the TRX system serving as an index marker for cellular proliferation and senescence.	
17. Mediation of unusually high concentration of 1,25-dihydroxyvitamin D3 in homozygous klotho mutant mice by increased expression of renal 1α-hydroxylase gene. (查読付)	共	2002年02月	Endocrinology 143, 683-689 (2002)	Yoshida, T., Fujimori, T., Nabeshima, Y. 老化類似マウスKlotho変異体とビタミンD代謝の異常を最初に報告した論文(被引用多数)。Homozygous klotho mutant (kl-/-) mice exhibit multiple phenotypes resembling human aging. To elucidate the molecular basis of these singular phenotypes, we focused on the mechanisms underlying increased serum concentrations of calcium and phosphorus in kl-/- mice. Serum concentrations of calcitonin and PTH of kl-/- mice were normally up- and down-regulated, respectively, in response to the high levels of calcium. On the other hand, despite the high concentrations of calcium, serum levels of 1,25-dihydroxyvitamin D [1,25-(OH)2D] in kl-/- mice were significantly higher than that of wild type (WT). The expression of 25-hydroxyvitamin D lalpha-hydroxylase gene, the key enzyme of vitamin D metabolism, was also greatly enhanced in kidneys of kl-/- mice. Furthermore, the normal genetic responses to administered 1,25-(OH)2D3, such as down -regulation of the 25-hydroxyvitamin D lalpha-hydroxylase gene and up-regulation of 24-hydroxylase and VDR genes, were apparently impaired in kl-/- mice. These findings suggest	

研究業績等に関する事項						
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要		
3 学術論文						
18. klotho遺伝子と個体 老化	単	2001年10月	最新医学 最新医学 社 第56巻10号 p.20-29 (2001)	that this deterioration in the vitamin D endocrine system may result in many of the phenotypes in kl-/- mice through effects of increased levels of calcium and phosphorus and l, 25-(OH)2D. Klotho protein may participate in calcium and phosphorus homeostasis via the regulation of the l,25-(OH)2D signaling pathway. 吉田徹 老化類似症状を呈するklothoマウスの原因遺伝子の機能解明を目指して,この突然変異体の多岐にわたる表現型のうち,特に血中の高カルシウム濃度,高リン濃度に注目し,カルシウム制御ホルモンである活性型ビタミンDの動向に対する検討を行った.その結果,klotho 突然変異マウスにおいてビタミンD生合成の亢進が離乳期以前から認められ,さらにビタミンDシグナル伝達における異常を示唆するデータが得られた.本稿では,こうしたカルシウム代謝異常を呈する klotho 突然変異マウスの最新情報とともに,個体老化に対する考察を併せて紹介した。		
19.Impairment of B lymphopoiesis in precolous (klotho) mice. (査読付)	共	2000年06月	International Immunology 12, 861-871 (2000)	Okada, S., Yoshida, T., Hong, Z., Ishii, G., Hatano, M., Kuro-o, M., Nabeshima, Y., Nabeshima, Y., Tokuhisa, T. We analyzed the hematopoietic state in homozygous klotho (kl/kl) mice. The kl/kl mice showed thymic atrophy and a reduced number of splenocytes. These mice had almost the normal number of myeloid cells, erythroid cells, IL-3-responsive myeloid precursors and colony forming units in spleen (CFU-S) in bone marrow (BM), but had a substantially decreased number of B cells in BM and peripheral blood as compared with wild-type mice. IL-7-responsive B cell precursors and all of the maturation stages of B cells in BM were also reduced. However, the function of hematopoietic stem cells including their capacity of B lymphopoiesis in vivo and in vitro was normal. Early B cell development was also normal in neonates and young kl/kl mice until 2 weeks old without aging phenotypes. RT-PCR analysis revealed that the level of IL-7 gene expression was significantly reduced in freshly isolated kl/kl BM cells. However, injection of IL-7 in kl/kl mice could not rescue the B lymphopenia. These findings indicate that Klotho protein may regulate B lymphopoiesis via its influence on the hematopoietic microenvironment.		
20.The mosaic of brain glial hyperactivity during normal ageing and its attenuation by food restriction.	共	1999年03月	Neuroscience 89, 687-699 (1999)	Morgan, T.E., Xie, Z., Goldsmith, S., Yoshdia, T., Lanzrein, AS., Stone, D., Rozovsky, I., Perry G., Smith, M.A., Finch, C.E. We examined other markers of astrocyte and microglial activation in gray and white matter regions of ad libitumfed (Brown Norway x Fischer 344) Fl male rats aged three and 24 months and chronic food-restricted rats aged 24 months. In situ hybridization and immunohistochemical techniques evaluated glial expression of glial fibrillary acidic protein, apolipoprotein E, apolipoprotein J (clusterin), heme oxygenase-1, complement 3 receptor (0X42), 0X6 and transforming growth factor-betal. All markers were elevated in the corpus callosum during ageing and were attenuated by food restriction, but other regions showed marked dissociation of the extent and direction of changes. Food restriction also reduced the age-related increase in apolipoprotein J and E messenger RNA and heme oxygenase-1 immunoreactivity in the basal ganglia and corpus callosum. The localized subsets of glial age changes and effects of food restriction comprise a mosaic of ageing consistent with the regional heterogeneity of ageing changes reported by		

研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要	
3 学術論文					
				others. In particular, age has a differential effect on astrocytic and microglial hyperactivity in gray versus white matter areas. The evident mosaic of glial ageing and responses to food restriction suggests that multiple mechanisms are at work during ageing.	
21.Enhanced expression of mitochondrial genes in senescent endothelial cells and fibroblasts. (查読付)	共	1998年03月	Mechanisms of Ageing and Development 101, 91-99 (1998)	Kumazaki, T., Sakano, T., Yoshida, T., Hamada, K., Sumida, H., Teranishi, Y., Nishiyama, M., Mitsui, Y. We have constructed a cDNA library from senescent human vascular endothelial cells and isolated 86 senescence—specific cDNA clones by differential screening. Among the clones, we identified four distinct mitochondrial genes including NADH dehydrogenase subunit 2 (ND2), ND3, ATPase 6 and 16S ribosomal RNA. We then compared the levels of expression of these genes in young and senescent cells by using two endothelial and two fibroblast cell strains. Northern blot and slot blot hybridization confirmed that the expression levels of ND3, ATPase 6 and 16S rRNA were elevated in senescent cells of all four strains. The expression level of ND2 was also elevated during cellular senescence in three of the four strains. Because mitochondria are actively involved in oxidative phosphorylation and respiratory functions, the altered expression levels of these genes may participate in aging processes.	
22.Ligand-induced down regulation of TRK messenger RNA, protein and tyrosine phosphorylation in rat cortical neurons. (查読付)	共	1997年06月	Neuroscience 78. 851-862 (1997)	Knusel, B., Gao, H., Okazaki, T., Yoshdia, T., Mori, N., Hefti, F., Kaplan, D.R. We have found that chronic exposure of rat embryonic cortical neurons to brain-derived neurotrophic factor (BDNF) leads to a pronounced reduction of the levels of protein and messenger RNA for the full-length but not the truncated BDNF receptor TrkB. Similar effects were observed with the other TrkB ligands neurotrophin-3 and neurotrophin-4/5. After pretreatment with BDNF, neurotrophin-3 or neurotrophin-4/5, subsequent tyrosine phosphorylation responses of the remaining Trks to the same factors were greatly reduced. Three days exposure of rat embryonic cortical neurons to BDNF induced an absolute refractory period of several hours, with no subsequent response to the same factor. Similar but less pronounced refractory effects were observed with neurotrophin-3 and neurotrophin-4/5. Our results suggest a negative regulatory effect of BDNF and other TrkB ligands on TrkB receptors. Down-regulation of the TrkB response by its ligands might play a role in the control of BDNF action during early development, when BDNF levels significantly increase.	
23. Scavenger receptor mRNAs in rat brain microglia are induced by kainic acid lesioning and by cytokines. (査読付)	共	1997年03月	NeuroReport 8, 1077-1081 (1997)	Grewal, R.P., Yoshida, T., Finch, C.E., Morgan, T.E. The expression and localization of two distinct mRNAs from the macrophage scavenger receptor gene family were studied in rat brain cells in vivo and in vitro. Kainic acid (KA) treatment induced MSR and MAMA mRNA levels on different schedules in brain regions that are susceptible to KA, including hippocampal areas CA1 and CA3. The combination of immunocytochemistry and in situ hybridization localized the MSR and MAMA mRNA to microglia of KA-treated rats. Northern blot hybridization detected both MSR and MAMA mRNAs in primary cultures of mixed glia that contained microglia. Both MSR and MAMA mRNA were induced by treatment of primary mixed glia with lipopolysaccharide and interferon-gamma, but not TGF beta 1. MSR, but not MAMA, mRNA levels were	

研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要	
3 学術論文	17.14.47	7971 171	7 110 2 2 1 1 1 1 1		
				increased after treatment with interleukin-1 alpha. These results demonstrate the differential regulation of scavenger receptor mRNAs in microglia that is consistent with distinct roles for scavenger receptors in responses to neurodegeneration.	
24. Increased transcription of the astrocyte gene GFAP during middle-age is attenuated by food restriction: implications for the role of oxidative stress. (查読付)	共	1997年01月	Free Radical Biology and Medicine 23, 524 -528 (1997)	Morgan, T.E., Rozovsky, I., Goldsmith, S.K., Stone, D.J., Yoshida, T., Finch, C.E. Glial fibrillary acidic protein (GFAP), an intermediate filament of astrocytes, shows increased expression during aging. We showed that food restriction decreased the transcription of GFAP in aging rats. This result generalizes effects of food restriction on age changes of transcription; whether transcription decreases during aging as in hepatic genes, or increases during aging as in astrocytic GFAP, food restriction attenuates the age change. Moreover, food restriction decreased microglial activation during aging, which suggested the hypothesis that GFAP expression is sensitive to oxidative stress. Because GFAP transcription in cultured glia is increased by oxidative stress in response to hydrogen peroxide and cysteamine whether or not microglial were present, we conclude that responses of GFAP to oxidative stress in astrocytes do not depend on microglial activation. The results implicate oxidative stress in the increased expression of GFAP during aging, but also in responses to brain injury.	
25. Excitotoxic lesion of rat brain with quinolinic acid induces expression of p53 messenger RNA and protein and p53-inducible genes BAX and GADD45 in brain areas showing DNA fragmentation. (查 読付)		1996年10月	Neuroscience 74, 1143-1160 (1996)	Hughes, P.E., Alexi, T., Yoshdia, T., Schreiber S., Knusel, B. We report that excitotoxic lesion of rat brain with the N-methyl-D-aspartate receptor agonist, quinolinic acid, induces expression of p53 messenger RNA and protein in brain regions showing delayed DNA fragmentation and that expression of p53 messenger RNA precedes DNA damage detected by terminal deoxynucleotidyl transferase-mediated dUTP-biotin nick end-labelling. In addition, using in situ hybridization and immunocytochemistry we demonstrate increased expression of the p53-responsive gene Gadd-45 (preceding p53 expression) and re-expression of the p53-responsive gene Bax (following p53 expression), in these same areas. Bax has been shown to promote neuronal death by interacting with Bc1-2 family members while Gadd-45 expression has been associated with suppression of the cell-cycle and DNA repair. These results suggest that p53 protein may function as an active transcription factor in lesioned brain perhaps initiating the re-expression of Bax in injured brain regions. However, since Gadd-45 precedes p53 expression it appears unlikely that p53 is involved in regulating the early expression of Gadd-45. Taken together however, these results suggest that p53, Bax and Gadd-45 may play important roles in the response (damage/recovery) of	
26.Transcription supports age- related increases of GFAP gene expression in the male rat brain. (查読付)	共	1996年09月	Neuroscience Letters 215, 107 -110 (1996)	the brain following excitotoxic injury. Yoshida T, Goldsmith SK, Morgan TE, Stone DJ, Finch CE. During aging, rodent and human brains show progressive increases in the levels of glial fibrillary acidic protein (GFAP) mRNA and protein. The role of transcription was investigated by in situ hybridization, using an introncontaining cRNA probe as a measure of primary GFAP transcripts. We found parallel age-related increases in GFAP intron RNA in the hippocampus, internal capsule, and corpus callosum of 3 versus 24 month old male F344 rats. We	

	研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要		
3 学術論文						
27.Cloning of rat GADD45 gene and induction analysis following ionizing radiation in vitro.(查読 付)	共	1996年02月	FEBS Letters 380(1-2):87-92 (1996)	conclude that increased transcription supports the agerelated increase of GFAP mRNA and protein. GFAP is a unique example of a gene that shows increased expression during aging in contrast to the decreased transcription of certain genes reported in non-neural tissues. Yoshida T, Okazaki T, Hughes PE, Schneider EL, Mori N. A gene encoded GADD45 was isolated from rat and revealed four exons along with a p53 binding consensus sequence and a putative AP-1 site in the third intron. This suggests that the rat GADD45 gene is also involved in the p53 signal pathway related to the G1 cell cycle checkpoint. The rat GADD45 mRNA was induced within 30 min in liver and increased as a function of gamma-irradiation. We found that mRNA expression differed substantially in a variety of tissues (brain, liver, kidney, and spleen). The finding of in vivo		
28.Cloning of the rat GADD45 cDNA and its mRNA expression in the brain. (査読付)	共	1995年12月	Gene 166(2):343-344 (1995)	induction of GADD45 gene may provide insight into the role of GADD45 gene in DNA repair. Yoshida, T., Schneider, E.L., Mori, N. We cloned the rat Gadd45 (growth arrest and DNA damage inducible) cDNA and examined its mRNA induction by gamma-ray irradiation in the rat brain. The rat Gadd45 cDNA sequence was highly homologous to the previously published human and hamster cDNAs, and was partially similar to the 28S rRNA gene. The mRNA encoding rat GADD45 was induced in the brain after gamma-ray irradiation. This finding indicates that Gadd45 is an inducible gene following the ionizing radiation, not only in cultured cells in vitro, but also in animal tissues in vivo.		
7 O /ih				(1995年以降の業績リストを表示)		
その他 1. 学会ゲストスピーカー						
1. 遺伝子改変マウスに おける老化類似症状 とビタミン D 過剰に ついて	共	2007年06月	第30回日本基礎 老化学会(札幌) 話題提供講演「老 化とビタミンD」	吉田徹、淀井淳司 老化類似形質を示すklothoマウスノックアウトマウスを解析したと ころ、ビタミンD合成酵素の異常な発現が認められたほか、ビタミン D代謝に異常をきたしていることが判明した。老化とビタミンDの関 係性に関する新しい知見を報告した。		
2. チオレドキシン及び その結合蛋白質TBP- 2 [~] ストレス応答から 老化現象まで 2. 学会発表	共	2006年12月	日本分子生物学会 フォーラム2006 (名古屋)フォー ラム講演	淀井淳司、吉田徹、三井彰、岡新一、中村肇、増谷弘 レドックス制御因子であるチオレドキシン及び、チオレドキシン結 合蛋白質をそれぞれ高発現するトランスジェニックマウスを作製 し、老化と酸化ストレスとの関連性を調べた。これらのマウスで認 められた老化現象に関連する知見について報告した。		
1.女子大学生を対象と	共	2024年9月	第71回日本栄養改	諸井美樹、本宮暢子、吉田 徹		
した食品ロス削減の 意識と行動調査 — SNSを利用したフード シェアリング普及の 提言—		2021 0/3	善学会 2024年9月 6~8日 大阪(大 阪府)			
2. アルテミア耐久卵ガ ラス化における内在 性トレハロース量と 平衡水分含量の検討 3. 一般家庭における食	共	2024年6月 2024年5月	第69回低温生物工 学会大会 2024年 6月15~16日 高知 (高知県) 第78回日本栄養食	佐古つかさ、諸井美樹、吉田徹 諸井美樹、本宮暢子、青木美紗、吉田 徹		
品ロスの発生状況一 食品ロス削減に向け たインターネット情 報利用に関する検討			糧学会 2024年5月 24~26日福岡(福岡 県)			
4. プランクトンモデル		2023年12月	第46回日本分子生	吉田徹、佐古つかさ、諸井美樹		

研究業績等に関する事項						
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要		
2. 学会発表						
を使った生体組織の ガラス化条件の検討			物学会 2023年12月6日~8日 神戸 (兵庫県)			
5. A. franciscana乾燥卵 のガラス化状態に及 ぼす平衡水分含量の 検討	共	2022年11月	第45回日本分子 生物学会 2022年11月30日~ 12月2日 幕張(千 葉県)	佐古つかさ、諸井美樹、吉田徹		
6.Withコロナ社会にお ける食品ロス削減対 策手段の検討	共	2022年6月	第76回日本栄養 食糧学会2022年6月 10~12日 神戸(兵 庫県)	諸井美樹、宮本利幸、足田覚、青木美紗、本宮暢子、吉田徹		
7. アルテミア耐久卵の 胚組織内部における ガラス化状態の検討	共	2021年11月	第22回極限環境 生物学会2021年 11月20~21日(WEB オンライン大会)	佐古つかさ、諸井美樹、吉田徹		
8. 女子大学生の食品ロスへの意識と行動に関する実態調査〜新型コロナウイルスによる影響〜	共	2021年3月	第19回日本栄養 改善学会近畿支部 学術総会 202 1年3月7~13日 尼崎(兵庫県)	諸井美樹,吉田徹		
9. アルテミア水和胚卵 膜における膜透過性 改善処理の検討	共	2020年05月	第65回日本低温 生物工学会 20 20年5月30~3 1日 京都(京 都)	吉田徹、諸井美樹、福尾惠介		
10.女子大生を対象とし た食品ロス問題の解 決に向けた意識調査	共	2020年05月	第74回日本栄養食糧学会2020年 5月15日(金)~17日(日) 仙台(宮城県)	吉田徹,阪上綾、矢野めぐむ、横路三有紀、福尾惠介		
11. ガラス化促進剤を添加したうずら卵白ゲルの水分含量とガラス化傾向	共	2019年05月	第73回日本栄養 食糧学会 201 9年5月18日~1 9日 清水(静 岡)	阪上綾、矢野めぐむ、横路三有紀、福尾惠介、吉田徹		
12. トレハロースとLEAペ プチド添加によるう ずら卵白ゲルモデル の常温乾燥ガラス化 に及ぼす影響	共	2018年05月	第72回日本栄養 食糧学会2018 年5月11日~13 日総社(岡山)	阪上綾、矢野めぐむ、横路三有紀、福尾惠介、吉田徹		
13. 各種糖添加アガロー スゲルにおけるガラ ス化条件の熱分析	共	2017年05月	第71回日本栄養 食糧学会 201 7年5月19日~2 1日 那覇(沖 縄)	阪上 綾、矢野めぐむ、横路三有紀、福尾 惠介、吉田 徹		
14. 凍結脱水や減圧乾燥 によるアガロースゲ ルのガラス化保存条 件の検討	共	2016年5月	第70回日本栄養 食糧学会 201 6年5月13日~1 5日 西宮(兵庫)	吉田徹、阪上綾、福尾惠介		
15. 脱殻したアルテミア 水和凍結胚による凍 害評価	共	2013年6月	第58回低温生物 工学会 2013 年6月22日~23 日 千里(大阪)	吉田徹 田中翠 坂上万里 福尾惠介 福田満		
16.アルテミア脱殻水和 胚をモデル系とした 冷凍食品品質向上の	共	2012年12月	第 11 回日本栄養改善学会近畿支部学術総会 平成	鮫島由香、田中翠、鹿住敏、福田満、福尾惠介、吉田徹		

研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要	
2. 学会発表					
ための工夫			24 年 12 月 2 日 (西宮)		
17.アルテミア水和凍結	共	2012年5月	第57回低温生物	吉田徹、鮫島由香、田中翠、鹿住敏、福田満、福尾惠介	
胚の孵化率を指標と			工学会 平成24年		
した凍害評価法			5月31日~6月1日 (筑波)		
18. 異なる凍結速度によ	共	2011年12月	第34回日本分子生	鮫島由香、田中翠、山本遥菜、福田満、福尾惠介、吉田徹	
るA. franciscana凍 結胚の孵化率推移と			物学会 平成23年 12月13日~16日(横		
その氷晶状態			浜)		
19. 中年女性において	共	2011年10月	第33回日本臨床栄	 田中翠、山本遥菜、田中早苗、吉田徹、谷野永和、福尾惠介、鹿住	
FTO遺伝子多型は体脂		, ,,	養学会 平成23年	敏	
肪蓄積、高血糖、慢			10月28~29日(東		
性炎症に相関する			京)		
20. 若年非肥満女性にお	共	2011年05月	第54回日本糖尿病	田中 翠、田中 早苗、呉 斌、吉田 徹、福尾 惠介 、鹿住 敏	
けるFTO遺伝子多型の			学会 平成23年5		
体脂肪と摂取エネル			月19~21日(札幌)		
ギー量に与える影響	244	9011年09日	古物時四四七 にこ	+ m //h	
21.アルテミア発生胚の 緩速凍結による凍結	単	2011年03月	京都臓器保存セミナー 平成23年	吉田徹	
根本保証による保証 保存胚の孵化率改善			3月19日 京都		
			大学芝蘭会館山内		
			ホール(京都)		
22. 若年非肥満女性にお	共	2010年10月	第31回日本肥満	 田中翠、田中早苗、呉斌、吉田徹、福尾惠介、鹿住敏	
いてもFTOは体脂肪蓄			学会 平成22年		
積とインスリン抵抗			10月1-2日		
性に関与する			(群馬)		
23. 地域在宅高齢者にお	共	2010年08月	第32回日本臨床栄	山本遥菜、萩里早紀、谷野永和、小杉幸代、吉田徹、福尾惠介	
けるFTO遺伝子多			養学会 平成22		
型と体組成との関係			年8月28-29		
 24.若年女性における生	共	2010年05月	日(名古屋) 第64回日本栄	 田中翠、福尾惠介、鹿住敏、吉田徹	
活習慣病関連遺伝子		2010-7-00/1	養・食糧学会 平	四千季、個尾恋月、庭任敬、百田版	
の一塩基変異が生活			成22年5月21		
習慣病発症に及ぼす			日一23日(徳		
影響			島)		
25. Thioredoxin	共	2007年11月	第37 回日本免疫学	SUWA, H., YOSIDA, T., SON, A., NAKAMURA, H., OKUYAMA, H.,	
Binding Protein-2			会 2007年11月20日	MASUTANI, H., YODOI, J	
(TBP-2) regulates			~22日(東京)		
dendritic cells,					
NK cells, and allergic responses					
26. Thioredoxin	共	2007年11月	The 5th Meeting	Hiroaki Okuyama, Aoi Son, Toru Yoshida, Shinichi Oka,	
binding protein 2		2001-11)	of International	Hiroshi Masutani, Junji Yodoi, and Hajime Nakamura	
regulates			Redox Network		
Concanavalin A-			2007 (Korea)		
induced hepatitis					
through hepatic					
NKT cells					
27. Redox regulation	共	2007年10月	Society for Free	淀井淳司,孫安生,三井彰,岡新一,Liu, W., 加藤伸子,吉田徹,	
of inflammation			Radical	奥山裕照,增谷弘	
and metabolic stress by TRX/TBP-			Research International		
2 system.			Europe 2007		
_ 0,000m.			Meeting,		
			Vilamoura		
			(Portugal)		
28. Thioredoxin	共	2007年10月	第4回酸化ストレ	奥山 裕照、寺谷 明恵、孫 安生、 古川 鈴代、吉田 徹、岡	
binding protein 2			スと肝研究会	新一、星野 勇馬、Md. Kaimul Ahsan、山田 明、宮本 恭子、増	

研究業績等に関する事項						
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要		
2. 学会発表	八百百加	九五〇十八	人は1五年の日前			
は、肝内NKT細胞を介 してConcanavalin A による肝炎を制御す			2007年11月17~18日 (博多)	谷 弘、淀井 淳司、中村 肇		
29.Role of TBP-2 and Thioredoxin in the regulation of Energy Metabolism, Immune Deviation	共	2007年10月	13th Samsung International Symposium on Molecular Medicine, Seoul	Junji Yodoi, Aoi Son, Akira Mitsui, Eiji Yoshihara, Hiroaki Okuyama, Dongmei Wang, Shin-ich Oka, Hiroshi Masutani ,Toru Yoshida		
and Aging 30. チオレドキシン (Trx)結合蛋白質-2高 発現マウスにおける Trx還元作用抑制と老 化類似症状	単	2007年04月	(Korea) エイジングバイオ ストレスメタボリ ズム研究会 2007 年4月9日 (京都)	吉田徹		
31.Redox Control of Inflammation by Thioredoxin and its Family Proteins	共	2007年03月	2nd Congress of Molecular Medicine, 2007 March , Istanbul, (Turkey)	Mochizuki, M., Okuyama, H., Hara, T., Kato, N., Son, A., Yoshida, T., Yodoi, J		
32.Thioredoxin binding protein-2 高発現マウスにおけるlate-onset な老化 類似症状	共	2006年12月	日本分子生物学会 フォーラム2006 平 成18年12月6日~8日 (名古屋)	吉田徹、三井彰、王冬梅、孫安生、松尾禎之、望月芳香、中村肇、増谷弘、淀井淳司		
33. The involvement of thioredoxin and its binding protein on oxidative stress and the aging.	共	2006年09月	The 5th European Congress of Biogerontology 16-20 Sep. 2006 , Istanbul, (Turkey)	Yodoi J and Yoshida T.		
34. Thioredoxin and related molecules - basic science and clinical applications.	共	2006年04月	Korean society for Molecular Biology and Molecular Medicine, 2006 April, Seoul (Korea)	Yodoi J , Kondo N, Yoshida T, Oka S, Son A, Ha ra T, Nakamura H, Ma sutani H.		
35.Thioredoxin binding protein-2に よる樹状細胞の機能 制御	共	2005年12月	第35回日本免疫学 会総会 2005年12月 13-15日 (横浜)	孫安生、石井保之、近藤則彦、岡新一、吉田徹、中村肇、増谷弘、 淀井淳司		
36. Thioredoxin binding protein-2 高発現マウスにおける白色脂肪組織の減 少とエネルギー代謝 の変動	共	2005年12月	第28回日本分子生 物学会年会 2005年 12 月7日-9日(福 岡)	吉田徹、岡新一、猪俣泰也、増谷弘、中村肇、淀井淳司		
37. Thioredoxin binding protein-2 transgenic mice- implication of aging phenomena in vivo.	共	2005年11月	The 3rd Meeting of International Redox Network (Kyoto)	Yoshida, T., Masutani, H., Nakamura H. and Yodoi, J.		
38. チオレドキシン結合 蛋白質は絶食時の肝 機能維持に必須の役 割を果たす新たな糖 脂質代謝制御因子で	共	2005年10月	第2回 酸化ストレ スと肝研究会 2005年10月29,30日 (福岡)	岡新一、劉文瑞、増谷弘、平田晋三、真貝洋一、山田秀一、吉田 徹、中村肇、淀井淳司		

研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要	
2. 学会発表					
ある 39.Redox regulation of lipid rafts- mediated transport and clinical application by TRX /TBP2 system	共	2005年10月	The Annual Meeting of the International Society for Interferon and Cytokine Research, October 20-24, 2005, Shanhai, (China)	Yodoi, J., Kondo, N., Yoshida, T., Nakamura, H., and Masutani, H.	
40. Regulation of cellular redox signaling and growth by thioredoxin and thioredoxin binding protein-2.	共	2005年09月	6th International Conference of the Society for Free Radical Research Africa, September 26- 29, 2005, Tetouan, (Morocco)	Yodoi, J., Kondo, N., Yoshida, T., Nakamura, H. and Masutani, H.	
41. Thioredoxin binding proteins: Role for cancer protection. Oxidants and antioxidants in biology.	共	2005年09月	Annual Meeting of the Oxygen Club of California, September 7-10, 2005, Alba, (Italy)	Masutani, H., Ahsan, M.K., Oka, S., Yoshida, T. and Yodoi, J.	
42. Redox Regulation of cell signaling via lipid rafts by Thioredoxin and Thioredoxin binding protein-2 (TBP2)/VDUP-1 system	共	2005年06月	4th Meeting of the South American Group of the Society for Free Radical Biology and Medicine, June 29-July 2, 2005, Sao Paulo, (Brazil)	Yodoi, J., Kondo, N., Yoshida, T., Nakamura, H., and Masutani, H.	
43.Thioredoxin binding protein-2 高発現遺伝子改変マ ウスの作製とその解 析	共	2004年12月	第27回日本分子生 物学会 12月8日~ 11日(神戸)	吉田徹、孫安生、松尾禎之、岡新一、近藤則彦、増谷弘、中村肇、 淀井淳司	
44. Regulatory roles of thioredoxin and thioredoxin binding prortein-2 (TBP-2) on lipid rafts-mediated growth signal and lipid metabolism.	共	2004年11月	11th Annual Meeting of the Society for Free Radical Biology. & Medicine, November 17-21, 2004, ,St. Thomas (US)	Yodoi, J., Yoshida, T., Oka, S., Masutani, H., Nakamura H. and Kondo, N.	
45. チオレドキシン・チ オレドキシン結合タ ンパク質によるスト レス応答・寿命制御	共	2004年07月	第26回日本基礎老 化学会総会 7月 21-23日 (名古 屋)	淀井淳司、吉田徹、岡新一、増谷弘、中村肇	
46.老化促進モデルマウ スklothoにおける thioredoxin	共	2003年12月	第26回日本分子生 物学会 12月10日~ 13日(神戸)	吉田徹、金勇徹、増谷弘、淀井淳司	

	1	1 .	研究業績等に関	見する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表	1	1		
binding protein-2/ vitamin D up- regulated protein- 1遺伝子及びビタミン D応答性遺伝子の転写 発現亢進				
47. Thioredoxin and thioredoxin binding protein-2 / vitamin D3 up-regulated protein leffectively attenuate cellular oxidative stress and/or T-cell leukemogenesis	共	2003年11月	10th Annual Meeting of the Society for Free Radical Biology and Medicine, November 20-24, 2003, (Seattle)	Nishinaka, Y., Yoshida, T., Masutani, H., Nakamura H. and Yodoi, Y.
48. Redox stress regulated by thioredoxin and thioredoxin binding protein-2 (TBP-2/VDUP-1)	共	2003年05月	20th International Kumamoto Medical Bioscience Symposium, Current topics in redox bio- signaling and stress responses, (Kumamoto)	Yodoi, J., Nishinaka, Y., Oka, S., Yoshida, T., Maeda, M., Nakamura, H., Masutani, M.
49. 腎臓遠位尿細管カル シウム再吸収場にお けるKlotho蛋白の発 現	共	2002年12月	第5回klotho研究会 (東京)	吉田徹、藤森俊彦、鍋島陽一
50.klotho突然変異体マ ウスにおける活性型 ビタミンD代謝異常 について	共	2001年12月	第4回klotho研究 会(東京)	吉田徹、藤森俊彦、鍋島陽一
51.klotho突然変異体マ ウスにおける活性型 ビタミンD合成亢進 及びビタミンD生合 成酵素系に対する フィードバック異常	共	2001年12月	第24回日本分子生 物学会 2001年12月 9日~12日 (横浜)	吉田徹、藤森俊彦、鍋島陽一
52.klotho突然変異体マ ウスにおける活性型 ビタミンD代謝異常 に対するフィード バック異常	共	2001年06月	第75回日本内分泌 学会 ホットトピッ ク演題 (大阪)	吉田徹、藤森俊彦、鍋島陽一
53.Caloric restriction reverses the age- related activation of astrocytes and microglia.	共	1998年12月	51st Annual meeting of the Gerontological Society of America, (Philadelphia)	Morgan, T.E., Goldsmith, S.K., Yoshida, T., Rozvsky, I., Finch, C.E.
54.酸化ミエリン取り込 みに伴うミクログリ アの活性化	共	1997年11月	第2回グリア研究 会、1997.11 (東 京)	吉田徹、三井洋司
55. 細胞老化におけるミ トコンドリア遺伝子 の発現上昇	共	1997年6月	第20回日本基礎老 化学会総会 1997年 6月18-20日、(東 京)	熊崎勉、坂野俊宏、吉田徹、西山正彦、三井洋司

研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要	
2. 学会発表					
56. Increased	共	1996年11月	26th Annual	Hughes, P.E., Alexi, T., Yoshida, T., Schreiber, S.S.,	
expression of p53-			Meeting of	Knusel, B.	
target genes, BAX			Society for		
and GADD45 in rat			Neuroscience,		
brain following			Nov. 1996,		
excitotoxic			(Washington D.		
lesion.			C.)		
57. Elevated glucose	共	1995年11月	25th Annual	Gao, H., Pong, K., Peterson, C., Yoshida, T., Hefti, F.,	
oxidation and mRNA			Meeting of the	Knusel, B.	
expression of			Society for	 (1995年以降の業績リストを表示)	
glycolytic enzymes			Neuroscience,		
by neurotrophins			Nov. 1995, (San		
in rat cerebral			Diego)		
cortical neurons.					
			I.		
4. 芸術(建築模型等含む)	・スポーツ	ソ分野の業績			
	<u> </u>				
5.報告発表・翻訳・編集・	座談会・記	寸論・発表等 I			
 6.研究費の取得状況					
0. 研究員の取得状況 1. ダイバーシティ研究	共	2020年	文科省	食品ロスに対する意識及び行動の実態調査―新型コロナウイルスの	
環境イニシアティブ		2020	入行日	流行が与えた影響一	
(牽引型)				Dial 1 W 3 / C/C/N/ E	
2. 挑戦的萌芽研究 継	共	2016年	文科省	 常温ガラス化保存技術開発のための基礎的研究(研究代表者)	
続		2010	XIII	THE MANY OF A LICENSE OF THE PROPERTY OF A STATE OF THE PROPERTY OF THE PROPER	
3. 挑戦的萌芽研究 継	共	2015年	文科省	 常温ガラス化保存技術開発のための基礎的研究(研究代表者)	
続			7111	The many of the best of the be	
4. 挑戦的萌芽研究 新	共	2014年	文科省	 常温ガラス化保存技術開発のための基礎的研究(研究代表者)	
規	. ,			(2) (2) (3) (3) (3) (3) (4)	
5. 挑戦的萌芽研究 継	共	2013年	文科省	 過冷却状態を利用した新規凍結保存技術の基礎的研究(研究代表	
続				者)	
6. 挑戦的萌芽研究 継	共	2012年	文科省	過冷却状態を利用した新規凍結保存技術の基礎的研究(研究代表	
続	,			者)	
7. 挑戦的萌芽研究 新	共	2011年4月2	文科省	ログ 過冷却状態を利用した新規凍結保存技術の基礎的研究(研究代表	
規	()	日		者)	
	++	2011年04月	文科省	ゴグ 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応	
0. 母 器 研 究 (b)	1 共	1			
8. 基盤研究(B) 継続	共	01日		用に関する研究	
		01日 2010年	文科省	用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応	
8. 基盤研究 (B) 継続 9. 基盤研究 (B) 継続	共	01日 2010年	文科省	新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応	
9. 基盤研究 (B) 継続	共			新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究	
		2010年	文科省	新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応	
9. 基盤研究 (B) 継続	共	2010年	文科省	新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究	
9. 基盤研究 (B) 継続 10. 基盤研究 (B) 新規	共	2010年		新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 6ける活動等	
9. 基盤研究 (B) 継続 10. 基盤研究 (B) 新規 年月日	共	2009年	文科省学会及び社会にお	新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究	
9. 基盤研究 (B) 継続 10. 基盤研究 (B) 新規	共	2010年 2009年 全国栄養士養	文科省 学会及び社会にま 成施設協会会長顕彰	新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 6ける活動等	
9. 基盤研究(B) 継続 10. 基盤研究(B) 新規 年月日 1. 2024年11月 2. 2023年2月	共	2010年 2009年 全国栄養士養 武庫川学院永	文科省 学会及び社会にま 成施設協会会長顕彰 年勤続被表彰	新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 6ける活動等	
9. 基盤研究 (B) 継続 10. 基盤研究 (B) 新規 年月日 1. 2024年11月 2. 2023年2月 3. 2018年5月	共	2010年 2009年 全国栄養士養 武庫川学院永 日本極限環境	文科省 学会及び社会にま 経成施設協会会長顕彰 年勤続被表彰 3生物学会	新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 6ける活動等	
9. 基盤研究 (B) 継続 10. 基盤研究 (B) 新規 年月日 1. 2024年11月 2. 2023年2月 3. 2018年5月 4. 2016年4月	共	2010年 2009年 全国栄養士養 武庫川学院永 日本極限環境 日本栄養食糧	文科省 学会及び社会にま 成施設協会会長顕彰 年勤続被表彰 生物学会 社学会	新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 Sける活動等	
9. 基盤研究(B) 継続 10. 基盤研究(B) 新規 年月日 1. 2024年11月 2. 2023年2月 3. 2018年5月 4. 2016年4月 5. 2012年11月	共	2010年 2009年 全国栄養士養 武庫川学院永 日本極、農食糧 日本冷凍空調	文科省 学会及び社会にま で成施設協会会長顕彰 年勤続被表彰 生物学会 は学会 は学会	新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 6ける活動等	
9. 基盤研究 (B) 継続 10. 基盤研究 (B) 新規 年月日 1. 2024年11月 2. 2023年2月 3. 2018年5月 4. 2016年4月	共	2010年 2009年 全国栄養士養 武庫川学院永 日本極限環境 日本栄養食糧	文科省 学会及び社会にま 成施設協会会長顕彰 生勤続被表彰 生物学会 は学会 は学会 はごせい	新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究 6ける活動等	